

営巣みたび

染谷 秀雄

四月ももうすぐ終わるころになつて庭の柵にまた鶇が巣を作っていると妻が外したのを見せてくれた。まだ途中であるがなかなかよくできている。去年の時から「巣ができたなら今度は観察をしてみよう」と翌朝にそつと元の位置に戻してやった。しかしながら変つた様子がないまま二、三日が過ぎた。やはり人間が一旦動かしてしまふと同じように置いても鶇も判つていてもう使わないのかもしれない、と話していた矢先、ゴールデンウィークの最中に玄関ドアを開けるとバタバタと柵から鶇が飛び立つた。よく見ると棕櫚の皮とかビニール紐などがあたりに落ちてゐる。また戻つてきて営巣を続けるようだ。ドアの音をたてないようになつても巣を飛び立つ、何と警戒心の強い鳥であることか。本能的に家の近くに巣を作ることと鶇などの外敵から逃れる術を知つてゐるのであろう。ちらし玉仕立ての柵は適度に雨が凌げ、人の目の高さにあるためか巣の中は見られにくく外敵の侵入もされにくい絶好の営巣環境にあるらしい。燕の巣と同様に鶇の巣が作られると金運と幸運が舞い込んでくる縁起のよい鳥ということで今年こそ雛が無事育つて巣立ちするとところを見たいものだ。

十連休も最終日、天気も良くなり気温もぐんと上がつてきた午後、回覧板が回つてきたので隣の家へ渡そうとベルを押しかけたときに、目の前に一メートルほどの青大将が身をくねらせてどきりと落ちてきた、と思つたら隣の車庫の中に入ってしまった。予期せぬことにしばらく動悸が治まらなかつた。我が家の庭に寄つて来ないことをひたすら願うばかりだ。

営巣中の鶇や生まれた雛を襲つて来はしないかと心配な連休明けである。